



2025 年 5 月 2 日

各 位

会 社 名 ポ ー ト 株 式 会 社
代 表 者 名 代表取締役社長 CEO 春 日 博 文
(コード番号：7047 東証グロース・福証 Q-Board)

問 い 合 せ 先 常 務 執 行 役 員 辻 本 拓
財 務 I R 部 長

TEL. 03-5937-6466

投資家Q & A 2025 年 4 月

2025 年 4 月に機関投資家様・個人投資家様より頂戴した主なご質問とその回答についてレポートいたします。

本開示は投資家様への情報発信の強化とフェアディスクロージャーの観点より、毎月第 2 営業日に開示を予定しております。また、理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

#系統用蓄電所事業

Q. ポート社の戦略として、単なる電力卸売り事業ではなく、あくまで電力事業者への業務支援（付加価値創出）としての系統用蓄電所事業だと受け取っておりますが、それ単体では投資効率が悪い蓄電池に投資するリスクを負ってまで、この付加価値にはリターンがあると考えの根拠を教えてください。

A. 前提として、現時点である程度高い収益性を見込めており、決して投資効率の悪い収益性を見込んでいるわけではございません。その上で、運用からの期待収益だけでなく、特に安定した電源を持たない電力事業者にとって電力調達、供給プロセスの課題解決としてニーズがあると考えているため、系統用蓄電所事業は、電力事業者への業務支援の一環として、当社のエネルギー領域における事業拡大に繋がるものと考えております。

Q. 系統用蓄電所事業では、今後市場規模が拡大していくとしても投資利益率は低い値となってしまうと考えています。系統用蓄電所を増設していき、稼げない固定資産の構成比が大きく増えていくようなことは起こりえないでしょうか。

A. 実稼働後の検証を経て本格参入の判断をしていきますが、現時点における見通しとしてある程度高い収益性を見込めております。

しかしながら、既存の成約支援事業と比較すると系統用蓄電所事業は B/S（貸借対照表）を大きく使用する事業にはなります。そのため、既存の成約支援事業の成長・拡大の状況を踏まえながら、系統用蓄電所事業への投資をどのようなスピードで進めていくかについて、慎重に計画策定を進めてまいります。

Q. 系統用蓄電所事業への投資規模や、投資資金の調達方法についてはどのようなお考えでしょうか。

A. 系統用蓄電所事業の検証には、総額約 10 億円の投資を予定しています。本格参入時には、事業拡大に向けた大規模な投資も想定していますが、その際は、M&A 等の成長投資に影響を及ぼさないよう、グリーンファイナンスやプロジェクトファイナンスの活用等も検討してまいります。

会社概要

会社名 : ポート株式会社
代表者 : 代表取締役社長 CEO 春日博文
所在地 : 東京都新宿区北新宿 2-21-1 新宿フロントタワー5 階
設 立 : 2011 年 4 月
資本金 : 2,407 百万円 (2024 年 12 月末時点)
URL : <https://www.theport.jp/>

■本件に関するお問い合わせ

ポート株式会社 : IR 担当
コーポレートサイト : <https://www.theport.jp/>
E-mail : ir@theport.jp TEL : 03-5937-6731

※当社ではリモートワーク制度を導入しております。
お電話が通じにくくなる場合がございますので、
お問い合わせは E-mail までお願いできますと幸いです。